

# ミステリ読書案内

2023. 10. 15 発行元

第521号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 青柳「むかしむかしあるところに、…」

8月に双葉社から青柳碧人の『むかしむかしあるところに、死体があってもめでたしめでたし。』が出た。題名があまりにも長いので上の見出しには途中までしかかけなかった。「昔ばなしミステリ」の最新刊。

### 「昔ばなしミステリ」

『小説推理』に連載された五編を集めた短編集。帯に「驚きの最終巻」と書いてあるので、これで終わりなのだろうか？ 確かに昔ばなしもいろいろ取り上げてきたので…。右上の表には「赤ずきんシリーズ」と併せて並べてみた。

青柳碧人作品でいうと、数学関連のミステリもなかなかの出来だが、この「昔ばなしシリーズ」も発想の良さが光っている。世の中ではこのシリーズの方がベストセラーになっているのも頷ける気がする。

### 第一話「こぶとい奇譚」

鬼の特殊能力。生き物の体の一部を剥ぎ取って、別の生き物にくっ付けるといふ技をストーリーの中に生かした作品。こぶを取ってこぶを貼り付けるのはわかっているのだが、顔を剥ぎ取って…とまでは考えもしなかった。この発想で行くと…などのトリックが簡単に出来てしまうことになる。

第二話『陰陽師、耳なし芳一に会う』。琵琶を演奏しながら『平家物語』を聞かせる盲目の僧・芳一の話の土台にしている。平家の亡霊にはびっしり経文が書かれた部分は見えない。書き残していた耳だけを持ち去る展開なのだが、その傍にもう一人の男が倒れて死んでいたのだ。この殺人事件の犯人は…。見える、見えない、がポイント。

### 第三話「女か、雀か、虎か」

第三話の『女か、雀か、虎か』はストックトンのリドル・ストーリーの内容も含んでいるが、基本の筋は『雀のお宿』。おじいさんが雀のお宿から帰る時に持たせられる「葛籠つづら」に「女」と「雀」と「虎」の絵柄が描かれた三種類が登場し、どれを選ぶかによって、ストーリー展開が変わるといふ趣向。

第四話の『三年安楽椅子太郎』は『笠地蔵』を土台にした話。雪の積もった朝に…何かを引きずった跡があり、それを辿っていくとやがて死体にぶつかるという…。笠をかぶ

### 青柳碧人「昔ばなしミステリ」

1. むかしむかしあるところに、死体がありました。
2. 赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。
3. むかしむかしあるところに、やっぱり死体がありました。
3. 赤ずきん、ピノキオ拾って死体と出会う
4. むかしむかしあるところに、死体があってもめでたしめでたし。

った地蔵さんと、ほっかむりをした小振りの地蔵さん。さて…雪女らしきものも登場してきて…。

### 第五話「金太郎城殺人事件」

この第五話『金太郎城殺人事件』がこの本の一番の目玉と言えるだろう。坂田の金時(金太郎)の子孫が登場するけれども、昔ばなしというよりは独自の密室殺人事件風の流れ。隔離された城の中で一人、また一人と殺されていく。『そして誰もいなくなった』にも触れている。第四話に登場した「なえ」という女兒と三年安楽椅子太郎探偵が再び謎に挑む。城の囷入りで楽しく読むことができる。

これで完結というのも残念な気がする。最後に出てきた「三年太郎探偵」のシリーズでも続けてもらえるとよいのだが…。

## 鶴林伸也「秘境駅のクロースド・サークル」

昨年9月に東京創元社

のミステリ・フロンティアの一冊として出た本。作者の鶴林伸也は本書の前に『ネクスト・ギグ』という作品を出しているようだが、私は未読。帯に「ロジックときどきトリック」と書いてあったので購入してみた。

五編収録の短編集。第一話の『ボールがない』を使って特徴を説明しよう。高校の野球部一年生。練習試合に連れて行ってもらえないので、学校で練習。監督からボールを百個預けられ、練習後数の確認。一個足りない。帰ってきた監督が怒って「見つけるまで帰っては駄目」と言われた。ボールの捜索が始まるのだが、一通り探しても見つからない。そこで理詰めを考えることに。ホームランで場外に行ったボールは？ 糸が切れて使えなくなったボールは？ 蓋がかかっている側溝の泥上げをしなかったか？ …何か、こんな思考はいつかどこかで誰も経験していることかも…。まあ、見どころは意外な隠し場所と言うか…。ロジックなんだけれども、今一つインパクトに欠ける。第二話以降には死体も登場して、「日常の謎」系の範囲に止まらないのだが、隅をつつくような論理性が本書の特徴。表題作の『秘境駅のクロースド・サークル』が四国にある山岳地帯のスイッチバックの秘境駅を舞台にした殺人事件で、これが一番よく考えられている。